

《企 画 書》

提出者 モナリサ

【タイトル】 サーヤとサリーの物語 ～呪いの言の葉～

【概要】

大人へ贈る童話です。主人公サリーはおとなしくどもりがひどい女の子。人生があまりに辛く、小学校1年生6歳の冬、母親に「この役立たず！！」と罵られ、二段ベッドに紐を通して首つり自殺を試みます。その時に背後から……3歳の幼い妹サーヤがまるで大人のように声をかけます。

「サリー死ぬな。死ぬのは私だよ……」

その後サーヤは幼稚園での事故で本当に亡くなり、毒舌天使としてサリーの元に現れます。繊細すぎて生きづらいサリーがやがてお母さんになる日のためにサーヤのレッスンが始まります。大きな視点でいうと、子育てのからくりが解き明かされる物語です。

【想定する読者ターゲット】

- ① 子どもの頃、大人の心無い言葉で傷をおった人
- ② 子育てに悩みのある人
- ③ お母さんやお父さんになるかもしれない人
- ④ 子どもの幸せを願っている人
- ⑤ 世界平和を祈っている人

【構成案】

はじめ

- ・首つりサリー
- ・サーヤの死
- ・毒舌天使誕生

大人の言の葉レッスン

- ・言葉の鈍感ナイフ
- ・学校地獄
- ・正義仮面参上！
- ・いい子の呪い
- ・変なおじさんの救いの白

子どもの言の葉レッスン

- ・宝石がそこにある
- ・モンスターになりたくない
- ・お母さん行かないで

- ・手を当てて耳を澄ませば
- ・言葉をこえた言葉

おわり

- ・悲しみの水脈エンヤコラ
- ・わたしがわたしを抱きしめる
- ・未来へ贈る言の葉

【サンプル原稿】

はじまり

- ・首つりサリー

ひもに首を通したのは、小学校1年生の冬休みだ。

赤い色に塗られた二段の上の段に、なかなか上手に輪をつくることができた。ひもはママがかわいいきんちゃく袋を作ってくれた時にあまったものが、たまたまあってよかった。

ママはいい人で有名だ。いつもニコニコしている。みんなの嫌がることもすすんでやっている。気の強いおばあちゃんからイヤなことを言われても、言い返すことはない立派な人だ。

でも時々わたしがへまをすると、違う人になったみたいに悪い言葉をいう。

この間は妹のサーヤとおままごとをしていたら、突然泣きながら怒り出した。すごく楽しかったからびっくりしてママをみると、ワナワナ震えながら何度も私の肩を強くゆらして言ったんだ。

「この役立たず！！」

「あんたがのろいせいで、私が笑われるんだよ」

「あんたのせいだ！あんたのせいだ！」

鬼みたいな顔のママは本当に怖い。

わたしは本当にダメな子どもなんだ。ぜんそくだし顔もブスだし、忘れ物も多い。

お母さんのいうとおり、わたしはとってものろい。

毎日給食が食べられなくて、5時間目まで吐きそうになって泣きながら食べさせられている。

友達のおうちでなんでも言うこと聞くごっこで、やりたくないことばかりやっている。

テレビでみた動物の世界で小鹿がライオンに食べられたのを見て体が痛くて眠れな

い。

火山が爆発するテレビを見たら、マグマが足元にあると考えるだけで怖くなる。

おどおどしてどもってしまうわたしに、

「しっかりしなさい」「ちゃんとしなさい」

と励ましてくれるけれど、ますます言葉がでてこなくてかわりにいつも涙がでちゃう。

お母さんに肩をゆすられながら思ったよ。わたしは死んだ方がいいんだって。

ということで、

首にひもをかけて片足を浮かせた。結構いたいし、これで本当に死ねるのかな。

「ママ、パパ、サーヤ、おばあちゃん、おじいちゃん、ありがとう……さようなら……」

みんなにお別れのあいさつをしたまさにその時。

後ろから声がした。

「サリー死ぬな。死ぬのはわたしだよ！」

びっくりして振り返ると、妹のサーヤが立っていた。3歳なのになんだか大人みたいに
見えた。

驚いているわたしをよそにサーヤはしゃべり続けた。サーヤはつい最近UFOにの
つて、自分の運命を聞かされたらしい。もうすぐ死ぬけれども天使になってわたしの人生
をガイドしてくれるって。

遠い未来、わたしがお母さんになる時がくるらしいのだけれど、人類の悲しい流れを整
えることが指名で、それはとても小さな行いだけれども、尊い行いなんだって。

もう、びっくり！！

でもいやだ！！

サーヤが死んじゃうなんて…

わたしは泣きながらサーヤにすがった。

「いやだよ、いやだよ、サーヤ！お別れなんて！もっともっと一緒にあそびたい！おま
まごとしたいよ！」

涙がどんどんあふれてくる。大人みたいなサーヤは、わたしの背中をなでながらいっ
た。

「誰しもみんな、いつか別れる時がくるんだよ。残された時間楽しくあそぼうね。」

涙も鼻水もたれながら、わたしはうんうんうなずいた。

3日後、サーヤは死んだ。

[以上となります。よろしく願いいたします]